

広島女学院同窓会佐伯地区だより

二〇一〇年度聖句

目を覚ましていなさい。信仰に基づいてしっかりと立ちなさい。雄々しく強く生きなさい。何事も愛をもって行いなさい。

コリントへの信徒への手紙(一) 一六章一三〜一四節

二〇一〇年度を迎えて 地区長 内山豊子

今年も新年度を迎えて、あらためて皆様にご挨拶いたします。今のスピード時代、何事も瞬時に伝達できるなかで、一年ぶりのおたよりとは、なんと時代遅れでのんびりしていることかと思われるかもしれません。総理までもが、ツイッターとやらで、国民と応答しているとか、今や情報は常に、世界中あちこちで飛び交っていることでしょう。

同窓会でもそのような新しい技術を駆使していかなければならない時期にきていることを実感いたします。

しかし一方ではスローライフも見直されていることも事実です。長い人生の終盤にさしかかった現在感じていることは、一年などあつという間で、一年またはそれ以上の間隔でゆつくりと流れているものなかで、私たちは本当に大切な事を体得しているように思われるのです。

母校広島女学院大学は、今年度から学長に同窓生である長尾ひろみ先生を迎えて新しい出発を始めました。これは広瀬院長以来皆が願っていたことで、新学長に大いに期待したいものです。

二〇〇九年度活動報告

書記 小田穂恵

*地区だより発送作業・・・五月十三日 (十名参加)

*ボランティア作業・・・奇数月の第二水曜日、楽々園公民館にて、特別養護老人ホーム「清鈴園」のお年寄りのためのお下拭き作成作業。参加者はやや減少のみで一回平均七、八名。毎回約七十枚作成。

*クリスマス会・・・十二月一日 コーラルホテルにて (十七名参加)

*クリスマス献金(例年通り) 止揚学園、清鈴園、ケアセンターへ各二万円。キリスト教社会館へ一万円

*高校新校舎竣工祝 五万円

*地区会・・・三月十日 楽々園公民館にて(九名出席) 午前中は作業をし、午後皆で話し合いをする。

二〇一〇年度役員

地区長 内山豊子 副地区長 有馬礼子 書記 小田穂恵

会計 増田公代 会計監査 大内妙子

幹事 野村久子、野坂登喜子、小田佐代子、藤原サナエ

中司久美子、宍戸るり子、平山純栄

※長年幹事役を務められた菊池トシエさんは本年から役を降りられました。長い間ありがとうございました。

二〇一〇年度活動予定

基本的には例年通り、二ヶ月に一度のボランティア活動を中心に進めていきます。またクリスマス会も予定しています。(十二月初め)。参加御希望の方はいつでもお気軽に内山までご連絡ください。(電) 〇八二九・三一・三七二二

会員の声・・・通信欄より

毎年会費振込用紙の通信欄に丁寧なお礼や励ましのお言葉を書いてくださる方にとっても力づけられます。その中のいくつかのメッセージをご紹介します。

○いつもお世話様になります。今年で八二才になります。古田様、岡尾様、同期です。(廿日市市阿品 渋谷正子様)

○昨年春からコンビニで働き出してやっとな一年になります。仕事を覚えて慣れる迄一苦労でした。(大竹市 松原公子様)

○井口で保育園をしています。場所また他にもご協力出来ることがあればしたいと思えます。(隅の浜 西村恵美子様)

○地区だより楽しみです。今回の和歌、俳句、心あたたまる様子、目に浮かぶようです。昨年、母を亡くしたもので、親の愛情をひしひしと感じ、母の偉大さに感謝している昨今です。ありがとうございます。 (楽々園 吉岡紘子様)

○昨年母を見送り、気がつけば私自身少し疲れが出ていることに気付きました。何もお手伝い出来ないのを申し訳なく思っております。(美鈴が丘 新本寿子様)

○地区だよりをありがとうございます。 (いまま)

2009年度会計報告 会計 増田公代

○ 収入の部	
*前年度繰越金	421,508 円
*会費(振込)	336,000 円
*会費(現金)	16,000 円
*寄付	2,000 円
*貯金利子	281 円
収入合計	775,789 円
○ 支出の部	
*地区だより発送費	207,420 円
*上記以外の事務費	57,980 円
*寄付及び祝い金	120,000 円
*集会費他	24,406 円
支出合計	409,806 円
次年度繰越金	365,983 円

尚、50万円の定期預金があります。
 会計監査 大内妙子 (4月8日実施)
 尚 2010年度の同窓会費 1,000円を同封の振込用紙にてお納めくださるようお願いいたします。(手数料節約のため、なるべくATM機にて、二人分の場合、用紙は一枚にてお願いします。)

楽しみに読ませていただいています。
 (海老園 平田香代子)

○いつもお世話様になっております。主人の転勤に伴って北九州、長崎、香川と他県にて子育て、夫の手助け?と約三十年間広島を離れておりましたが、やっと帰郷することができました。呉出身で大学のみ四年間英米文学部で学びました。同窓の皆様とお会いできることを楽しみにしております。
 (皆賀 佐伯恵子様)

○つづきましてお世話になっております。ふっと気づきましたら後期高齢者入口にさしかかりました。四七才の娘 大阪在住も中・高大(英米文学)

来年度のホームカミングデーは四月二四日、テーマ「校母グレンスの愛された」で盛大に開催された。(参加者約二百名) Chest UP は今も「ろみ新学長の講演」 CUN DEO LABORAMUS 共々働く者なり」などで同窓の絆を一層深めた。引き続き大学のグレンスチャペルにて同窓会寄贈のパイプオルガンのお披露目コンサートが行われた。高校新校舎竣工に際しての本部及び各同窓会支部からの祝金は校舎側面などに植樹されたオリーブの苗木購入に当てられた。

と同窓で、お陰さまで校歌も分かちあえます。今年の冬は是非クリスマス会に出席したく、お声をかけてくださいませね。(八幡東 吉岡澄子様)

和歌

宮河 利恵

「香の食卓」

簪食へ初春を壽ぐ元旦に

柚子の香りて彩り添える

本の芽つむこんぶのおだしのお味噌汁

一瞬にして春の印象

きゅうりもみ大葉さぎみて夏香る

涼しい風が食にいぎなう

さんま焼くださいこんすりに白ご飯

すだち絞れる秋の夕暮れ

宮川利恵（みやがわりえ）さん 自己紹介

アロマセラピスト リフレクソロジースト。

六才の時初めて詩を書く。高校生の時、国語の先生のすすめで日記を書き、それから詩を続けて書きはじめる。八冊の詩集を作る。社会人になって短歌を書きはじめる。

私がアロマセラピストになったのは、前回も少しふれましたが、栄養士、料理講師の母の心のこもったおいしくおいにおいにあふれ

た食事食べて育ったのが土台にある気がします。小さい頃、シナモンやローリエなどのスパイスの入った小箱が家にあったことなど思い出されます。今回もそんなことを歌にしてみました。アロマセラピー リフレクソロジー。自宅にて仕事を始めて十年になります。おつかれをとりにこられませんか。

連絡先 (〇八二九) 三六一三三〇一

「私の老後の生活」 小田稔恵（高五）

三三才の時、夫に先立たれた私は、七才の長男と五才の長女、それに妊娠七ヶ月の身重で東京から広島に戻り、実家の世話になりながら幼稚園の教師としての仕事と子育てに励んでまいりました。やがて長男が結婚し同居してくれましたが、しばらくは仕事をしながらもしっかりと主婦の座を守っておりました。孫娘が生まれ、生活が軌道に乗ったところで私は宣言しました。「私はもう主婦は卒業！おしゃもじはあなたに渡します。私はあなたに云われた事だけをします」と。その日から食事の仕度、息子や子ども主婦の仕事は一切嫁の仕事になりました。でも私は子育てが本職、「困った時は手伝いますよ」と申し出ました。二人目の孫娘が出来た頃、丁

度六〇才の定年になり家にいるようになりました。毎日時間にしばられないのん気な日々で暫く何もしないで一日ボートとして暮らしていました。ただ夜だけは九〇才を越す母の面倒を見に行っておりました。そのうち孫娘が三人になり、孫達をお風呂に入れたり、家族全員の衣服の洗濯片付けがわたしの仕事でした。孫達が成長した今では朝、子ども達が学校に行ってから起き上がり、朝食は自分で仕度して食べ、昼、夕食は用意されたものを頂きます。私は若い時出来なかつた、やりたいことを始めました。図書館や幼稚園でのお話会、パッチワーク、童謡を歌う会での合唱、清鈴園で洗濯物をたたむボランティア、この同窓会佐伯地区のお下拭き作り、美術館・植物公園・音楽会へ友達と出かけること、日曜日の礼拝出席、年一回の中高の同期会、短大のクラス会（これはあちこちでの一泊旅行）等々。海外旅行は六〇代のみ。病気をしてからにはドクターストップならぬ息子ストップがかかりました。

定年から早十五年の月日が経ち、後期高齢者になった今は孫娘達とにぎやかに喧嘩しながら暮らしています。中の娘は広島女学院にお世話になっていきます。学校の話をきいたり、一緒に讚美歌を歌ったりも楽しいです。

俳句

野村 久子

安産の絵馬の丹明り雪明り
にあか

急神も風神も在す磯とんど
りゆうじん ふうじん

虹立ちて春めく思ひいや増しに

幼くて母が手をかす雛流し
ひななが

綿菓子をかざす少女に春の風

初蝶と谷の朝日をわかちあふ
みたらし

御手洗に水のおふるる朝桜
あさざくら

猷能にしばし佇む通路かな
けんのう たたず

草苗の風となりゆく牧の道
まき

花菖蒲ゆれきらきらと雨の糸
はなしょうぶ

嬰兒を抱かせてもらふ端午の日
みどりこ たんど

いねし児の手にしつかりと夏蕨
なつむらび

*注釈

・丹明かり 鳥居の朱色が絵馬に映えている様子

・猷能 宮島の桃花祭に能舞台にて舞われる能

大先輩にインタビュ(三)

…：俵 清子さんの巻…

今年には俵清子さん(高女四一、旧姓山村

現在九四才)を下河内のグリーンヒルホー

ムにお訪ねし、お話を伺いました。

生い立ち 大正五年(一九一六)三月、広島

市大手町で生まれる。六人姉妹の真ん中に男

児一人の七人中、清子さんは下から三番目。

両親共熱心なクリスチャンで、七人のこども

は皆、幼児洗礼を受け、一家で鷹野橋伝道所

(現在の広島教会)に通っていた。六人の姉

妹全員が幼稚園(二年)小学校(六年)女学

校(五年)と十二年間広島女学院に通った。

広島女学院時代 他の学校に比べて「自由」

という印象が強かった。毎週二時間、英語と

聖書の時間があった。当時は毎朝礼拝があり、

先生は必ずクリスチャンであった。制服はセ

ーラー服で、上級生はネクタイの締め方を工

夫したり、ブラウスの丈を短くしたり、スカ

ートの折巾を狭くしたりとおしゃれに余念が

なかつたとか、女心はいつの世も変わらない。

勿論作法、裁縫などの日本女性としての基本

となるものもしっかり教わった。ゲーンズ先

生もまだお元気で、よく廊下や校庭で杖をつ



ゲーンズ先生には英語の歌を習ったことがある。昭和初期の良き時代であった。

卒業後 昭和九年(二八才)高女を卒業、

二三才で結婚。ご主人が満鉄勤務であった

ため中国に行き、九年を過ごす事になる。

その間、女児一人、男児一人を授かったが、

ご主人を兵役に取られたまま終戦を迎える。

昭和二十年十月帰国。はじめて両親とお姉

さん一人が被爆し即死、妹さんの一人は江

波で作業にあたっており、即死は免れたも

のの市内を歩いてガス(放射能)を受けそ

の日のうちに死んでしまった事を知る。一

年後にご主人がシベリヤから帰国。その後

男児をもう一人授かり、四人の子育てに追

われ、教会とも離れていたが、戦後二〇年

して改めて信仰告白をし、広島教会の正式

会員となった。ご主人が七〇才で亡くなっ

た後であった。

同窓会との関わり 子育ても一段落し、一

人になってからは学年会やバイブルクラス、

ホームカミングデーの集い、地区のクリス

マス会などによく出席していたが八三才を

最後にあまり出なくなつた。神様に見守ら

れて残る人生を終わりたいと、今でも隔週